

鶴ヶ島市立藤小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	学校は、学校教育目標や教育方針を作成するに当たり、保護者や地域の実態・ニーズを踏まえて設定している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校教育目標や教育方針を作成するにあたり、教職員は、100%ニーズを踏まえていると思っているが、保護者は、89%、学校関係者は、74%しか思っていないことがわかった。思い込みにならないように、保護者や学校関係者が納得できるような設定をしていかなければならない。
	児童			<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校側からの発信だけでなく、学校運営協議会を中心としてPTA会議や保護者会等での保護者の意見や、学校関係者の意見を取り入れて、設定していく。
	保護者	学校は、保護者のニーズをとらえて学校教育目標や教育方針を設定している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・「そう思う、大体そう思う」と答えてくれた方が平均で8割を超えている。保護者への周知はもちろんのこと、地域への周知と理解がされている証拠だと思われる反面、「わからない」と答えた割合が地域で2割程度見受けられる。特に昨年度と比較し地域の方々が「わからない」と答える割合が8%ほど増加している。これらの回答について具体的に意見を吸い上げられるようにするとともに、学校が掲げる児童像について、保護者側に周知する必要があると考える。また、質問の文言についても解釈の仕方が違うので、今後はその文言についても検討していかなければならないと考える。 地域の評価は調査の対象者により大分異なると思うので難しい。また周知の仕方も難しい。 保護者側の意見として「こんな子供に学校生活を通して学んでいってほしい」と思える学校教育目標であるので続けていってほしい。
	地域	学校は、地域の声を反映して学校教育目標や教育方針を設定している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p>	

鶴ヶ島市立藤小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校教育目標・教育方針	教職員	学校は、学校教育目標や教育方針を、保護者や地域住民に広く周知している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>「学校の教育目標や教育方針について、プリントで読んだり説明を受けたりしたことがある」に関しての肯定的評価は、保護者が94%と昨年度より3%増えた。今年度は、学校ホームページに児童の様子や学校の取り組みを積極的に掲載した結果と考えられる。また、懇談会でもMeetを使用して、校長から保護者の方へ話をしたことも結果につながったと考える。一方で、地域の方からの肯定的評価は、87%と、昨年度より4%減った。これは、コロナウイルスの影響で学校行事等の縮小に伴い、地域の方々との関りが減ったことが原因の一つと考えられる。</p>
	児童	私は、学校教育目標を知っている。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>年度当初の懇談会で、各学級で学校教育目標についての説明や配布物による周知により、保護者と地域の方々の学校教育目標に対する認知度を高めていく。また、引き続き学校ホームページを活用し、学校の取り組みを知っていただく。</p>
	保護者	学校の教育目標や教育方針について、プリントで読んだり説明を受けたりしたことがある。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者回答では「そう思う」「大体そう思う」と答えた割合が9割を超え、十分に周知されていると考える。しかし、地域回答ではその割合が昨年度と比較すると4%ほど減少気味であるとともに「わからない」と回答した割合が横ばいである。広報や学校ホームページ等を活用していることにより地域の方が学校の教育目標や教育方針についてのプリントを読んでいる割合が多いと考える。 ・自治会に入っていない世帯が増加傾向にあり、学校便りの回覧が回っていない地域も増加していることも懸念されているので、学校ホームページを利用した周知も効果的に行っていくとよい ・毎月自治会班長会議で『藤小だより』を配布している。今後、新規住民には各自治会加入を勧めていくことが大切であると思われる。
	地域	学校の教育目標や教育方針について、プリントで読んだり説明を受けたりしたことがある。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立藤小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察												
教育課程・学習指導 ③	教職員	教職員は、わかりやすく工夫した授業を行っている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>30%</td></tr> <tr><td>②</td><td>65%</td></tr> <tr><td>③</td><td>5%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	30%	②	65%	③	5%	④	0%	⑤	0%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>今年度は児童一人一人にタブレットが貸与され、ICTが急速に普及した1年となった。教職員、子どもたちともに90パーセント以上が、わかりやすく工夫した授業をしていると回答したのは、教職員側は子供たちにICT機器を利用して分かりやすい授業をしよう意識して取り組んだこと、子ども側もICT機器を使うことで、授業が分かりやすくなったと感じていることが要因と考えられる。</p>
	評価項目	割合														
	①	30%														
	②	65%														
③	5%															
④	0%															
⑤	0%															
児童	先生方は、わかりやすく工夫した授業をしている。	<table border="1"> <tr><th>評価項目</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>62%</td></tr> <tr><td>②</td><td>32%</td></tr> <tr><td>③</td><td>3%</td></tr> <tr><td>④</td><td>3%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>0%</td></tr> </table>	評価項目	割合	①	62%	②	32%	③	3%	④	3%	⑤	0%	<p>課題解決への方策</p> <p>次年度もさらにたくさんの子供たちがわかりやすいと思える授業が実践できるよう、ICT機器を活用した授業をさらに工夫し、こどもたちの学習意欲や探求心に応えていきたい。そのために学校課題研究や職員研修などで、ICT機器を活用した授業実践をさらに学んでいきたい。</p>	
評価項目	割合															
①	62%															
②	32%															
③	3%															
④	3%															
⑤	0%															
保護者			<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>分かりやすく工夫した授業で児童の肯定的意見が高いことから、先生方の熱心な指導の成果が出ていると考える。コロナ禍でリモート授業になりなかなか通常授業ができず、先生方も御苦労があらうかと思うが、今後もよろしく願いたい。リモート授業でも授業の後の質問できる環境があればよいと感じる。</p>													
地域																

鶴ヶ島市立藤小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
教育課程・学習指導	教職員	児童は、授業中話をよく聞き、落ち着いた態度で学習している。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> 多くの児童は落ち着いて学習に取り組んでいるが、14%の児童が自分を振り返って「できている」を選択できない状況にある。教職員や保護者の否定的評価もそのためとも考えられ、そうした子供たちと何とかして学習に参加させたいという思いの表れであろう。学習に集中できない児童が興味を持ち取り組めるようにしていくことが必要である。
	児童	私は、授業中話をよく聞き、落ち着いた態度で学習している。		<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> 集団生活を送るうえでのルールや思いやり、授業に興味・関心をひくような教職員の教材研究も必要だと考える。さらに、各教室にいる、配慮を要する児童へのかかわりについても研修をし、誰もがわかりやすく授業が受けられるユニバーサルデザインを意識した提示に努める必要がある。
	保護者	児童は、授業中人の話をよく聞き、落ち着いた態度で学習している。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> 保護者目線と地域の方々から見た児童の実態として受け取り方に差がある。特に今年度はコロナ禍で授業参観等を実施するのが難しかったのが大変大きかったと捉えている。地域の方々の中で「わからない」と回答している方が大変多かったのは、その要因が大きいと考える。更なる開かれた学校づくりを目指し、地域の方々の来校機会を設けていく必要があると考える。大型TVモニターでの授業ではモニターの方を向いて先生の話をよく聞いている。昨年度よりも肯定的な評価が減少しているが、授業参観を見る限りでは、落ち着いた態度でできていると感じている。タブレットを使用している図形の授業を見たが、ひとりひとり集中して問題を解いていたように感じた。
	地域	児童は、授業中人の話をよく聞き、落ち着いた態度で学習している。		

鶴ヶ島市立藤小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導・規律ある態度 ⑤	教職員	教職員は、児童の問題行動等に対して、組織的に、毅然とした態度で対応している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>ほとんどの教職員が組織的に毅然とした態度で対応していることになる。児童や保護者からの結果からも、発達に課題がある児童等、個別対応が難しいケースも増えている中で、丁寧な対応ができている成果と考えられる。</p>
	児童	先生方は、いじめやトラブルなどの問題に対して、きちんと指導してくれる。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>少しでも気になったら家庭に連絡したり面談することが大切である。アンケートなども参考にして丁寧に対応することが必要である。担任一人だけでなく、複数で情報共有と対応を今後も続けていくことが大切である。SCと連携を取るなど、より丁寧に一人一人を見ていくことが大切である。</p>
	保護者	教職員は、児童が学校の決まりや集団生活・社会生活でのルールやマナーなどが守れるよう指導している。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>■① ■② ■③ ■④ ■⑤</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・教職員、児童、保護者ともに肯定的な意見が9割を超え、良い傾向にあると考えられる。問題が起きたときに先生に言いやすい環境が整えられているのではないかと考える。一方、昨今の多様な考え方があの中で、家庭での指導やルール・マナー等についての躰ができていないかが課題である。引き続き学校・家庭が同一歩調で子供たちの育成に努めてほしい。</p>
	地域			

鶴ヶ島市立藤小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
生徒指導・規律ある態度 ⑥	教職員	児童は、学校の決まりを守り、学校生活を送っている。		<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>「児童は学校の決まりを守り、学校生活を送っている」という項目に対し、「そう思う」と答えた教職員は17%に対して、児童は55%で児童と教職員の認識にずれがある。しかし、①②の「できている」と答えたのはどちらも80%を超えており、決まりを守り学校生活を送れているという結果が得られた。 課題として、教職員の評価に差がある。学校として改めて評価する部分と課題として取り組む部分の共有が必要と思われる。</p>
	児童	私は学校のきまりを守り、学校生活を送っている。		<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・本校の課題とすべき点を、学年に応じためざす児童の様子を再確認し、共通理解・共通行動のもと指導に当たる。 ・月々の生活目標を確認し、クラスで達成させる手立てを考えさせ、自主的にルールや規律を守るように促していく。そして、道徳や特別活動をはじめ、日ごろから全教職員が子ども達の良い姿勢を褒めるなどの学校教育全体を通して規律を守る態度を育む必要がある。
	保護者	児童は、学校のきまりを守り、学校生活を送っている。		<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・児童や保護者の評価は高いので、安心して見ていられる状態にあると感じている。今後も一人ひとりきまりを意識して守っていただけることを期待している。一方で、教職員の評価が児童、保護者の評価に比べ低いのは、教職員一人一人の危機意識が高く、規律の部分で課題意識があることが伺える。引き続き、課題解決につながる指導に努めていただきたい。 ・地域からの回答で、「わからない」と回答した割合が多いのは、コロナ禍において児童の様子が捉えづらいことが要因と考えられる。学校でも指導を継続しつつ、家庭・地域でも声かけをしながら学校・家庭・地域が連携し、ルールや規律を守る子どもたちの育成に努めることが大切である。
	地域	児童は、学校のきまりを守り、学校生活を送っている。		

鶴ヶ島市立藤小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察											
生徒指導・規律ある態度 ⑦	教職員	児童は校内ですすんであいさつをしている。	<table border="1"> <tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>17%</td></tr> <tr><td>②</td><td>61%</td></tr> <tr><td>③</td><td>22%</td></tr> <tr><td>④</td><td>0%</td></tr> </table>	評価結果	割合	①	17%	②	61%	③	22%	④	0%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>すすんであいさつをしていると思っている児童が83%で、とても高い数値だったが、教職員・保護者・地域の方のアンケートでは少し低い結果となった。結果から、児童の行っているあいさつへの姿勢が周り少しズレがあると感じる。あいさつの言い方や声の大きさなど児童たちのあいさつへの意識に課題がある。校外でのあいさつや、来校者へのあいさつなどをよりできるよう指導していく必要がある。</p>	
	評価結果	割合													
	①	17%													
	②	61%													
③	22%														
④	0%														
児童	私は、すすんであいさつをしている。	<table border="1"> <tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>53%</td></tr> <tr><td>②</td><td>30%</td></tr> <tr><td>③</td><td>11%</td></tr> <tr><td>④</td><td>2%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>4%</td></tr> </table>	評価結果	割合	①	53%	②	30%	③	11%	④	2%	⑤	4%	<p>課題解決への方策</p> <p>まず、教職員全体が児童達により進んであいさつをし、その姿を高学年から中学年、低学年へと広げていく。それと共に、学級活動や道徳の授業であいさつの大切さを伝えていくことで、子ども達がより明るく進んであいさつできる力を育てていく。 計画代表委員を中心に、校内を盛り上げていく。いい挨拶をしている児童を積極的に褒めていく。</p>
評価結果	割合														
①	53%														
②	30%														
③	11%														
④	2%														
⑤	4%														
保護者	児童は、家族や近所の人にすすんであいさつをしている。	<table border="1"> <tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>11%</td></tr> <tr><td>②</td><td>39%</td></tr> <tr><td>③</td><td>34%</td></tr> <tr><td>④</td><td>15%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>2%</td></tr> </table>	評価結果	割合	①	11%	②	39%	③	34%	④	15%	⑤	2%	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <p>・挨拶ができていると評価している児童が多い反面、地域や保護者からの肯定的解答が少ないということから、家庭や地域での挨拶に課題が見えている。あいさつは基本的な生活習慣の基本であり、家庭教育の一環である。しかしながら、家庭での習慣づけも必要であると同時に学校でも児童が地域の皆さんに気持ちの良い挨拶ができるよう指導していく必要はあると考える。 ・児童の中で「知っている人」にはあいさつを返すが「知らない人」にはあいさつが返されない傾向にある。スクールガードや地域の方だとしても「知らない人」であれば、あいさつしても返ってこない。まずは、スクールガードの活動や地域活動等を通して顔見知りになることが大切である。今後もより一層の連携した取り組みに努めていただきたい。</p>
評価結果	割合														
①	11%														
②	39%														
③	34%														
④	15%														
⑤	2%														
地域	児童は、地域の人にすすんであいさつをしている。	<table border="1"> <tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>22%</td></tr> <tr><td>②</td><td>48%</td></tr> <tr><td>③</td><td>17%</td></tr> <tr><td>④</td><td>9%</td></tr> <tr><td>⑤</td><td>4%</td></tr> </table>	評価結果	割合	①	22%	②	48%	③	17%	④	9%	⑤	4%	
評価結果	割合														
①	22%														
②	48%														
③	17%														
④	9%														
⑤	4%														

鶴ヶ島市立藤小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
全 ⑧	教職員	学校は、登下校時の交通安全・不審者対策に関わる安全対策に取り組んでいる。	<p>48% 52% 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <p>教職員は肯定的意見が100%と、登下校指導や学校での意識付けを行っていること、また、不審者情報の素早い発信など、全体で取り組んでいることが現れている。児童の評価では否定的意見が約10%のとなっており、児童の中には下校トラブルや、車通りの多い道路など危険個所への不安要素などが要因と考えられる。保護者も児童と同様の要因が考えられる。</p>
	児童	安全に、安心して登下校できる。	<p>68% 21% 5% 2% 3%</p>	<p>課題解決への方策</p> <p>引き続き登下校での指導を徹底して行い、登下校のトラブルがないように意識付けを行う。また、危険個所や不審者情報などは、保護者地域の協力のもと、全体で安全な登下校ができるように見守っていく。 歩道が狭い場所や横断歩道がない場所はより見守りの強化をする。</p>
	保護者	学校は、保護者・地域住民と協力して、登下校の交通安全・不審者対策に関わる安全対策に取り組んでいる。	<p>39% 53% 6% 1% 1%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校が不審者情報を保護者へ流すことにより、家庭でも子供へ指導できている。 ・知らない人へのあいさつに難しさを感じるが、あいさつによって不審者対応ができるケースもある。スクールガードやPTAの地区防犯部と協力・連携していくことによって安全対策に取り組んでいただきたい。 ・児童の安全や見守りについて、保護者やPTAに協力を得ながら立哨活動等についていただいているが、スクールガードのみならず、地域に広く児童の安全の見守りについて、広く広報活動をしてみてはどうかという意見がある。学校だよりやスクールガードのメンバー募集について、保護者は勿論、自治会等に回覧をして広報活動をしていきたい。
	地域	学校は、保護者・地域住民と協力して、登下校の交通安全・不審者対策に関わる安全対策に取り組んでいる。	<p>65% 30% 0% 0% 0%</p>	

鶴ヶ島市立藤小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
保護者・地域との連携	教職員	学校は、情報を積極的に発信し、地域に根ざした、開かれた学校づくりに努めている。	<p>74% 26% 0%</p>	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学校からの情報発信について、高い評価をいただいている。（昨年度と比較し、保護者、地域での回答が5%～6%増加）その反面、「わからない」と回答しているのが昨年度比8%増えている。 ・教職員の評価と保護者の評価に大きな差は見られないが、一定数満足していない保護者は見られる。メールやホームページでの発信方法や内容に注意が必要である。
	児童			<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者や地域が求めている情報を、適切な方法で発信し、個人情報の保護や、著作権法等に留意しながら情報の公開等行っていく。 ・アプリの確実な登録と、ホームページで情報を発信していることを、保護者会や学校だよりなどでアピールしていく必要がある。
	保護者	⑨ 学校は、情報を積極的に発信し、地域に根ざした、開かれた学校づくりに努めている。	<p>45% 48% 5% 2%</p>	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ホームページ開設についての更なる発信が必要である。ホームページをチェックできない人への情報発信についても、内容に応じて今までと同様で紙媒体での周知も行うようにする。 ・メール機能やホームページでの開設により、高い評価となっていることがうかがえる。情報を広く伝えることは安心感にもつながるので、ぜひ引き続き情報発信に努めていただきたい。 ・メールやホームページは、タイムリーに情報発信ができてとても良いが、受け取り側の機器等により情報を得られない方への発信として、学校だより等の回覧も大切にしてもらいたい。
	地域	学校は、情報を積極的に発信し、地域に根ざした、開かれた学校づくりに努めている。	<p>43% 43% 0% 13%</p>	

鶴ヶ島市立藤小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察										
保護者・地域との連携 ⑩	教職員	学校は、保護者・地域住民などの地域人材を教育活動に活用している。	<table border="1"> <tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>22%</td></tr> <tr><td>②</td><td>57%</td></tr> <tr><td>③</td><td>17%</td></tr> <tr><td>④</td><td>4%</td></tr> </table>	評価結果	割合	①	22%	②	57%	③	17%	④	4%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・3年生（里山サポートクラブ）、4年生（福祉施設職員の講話）5～6年生（キャリア教育に関する講話）など、いくつか実施することができたが、コロナ禍ということもあり、計画通りに地域人材を活用することができなかった時期があった。また、保護者との連携も、来校いただく機会が減り、難しかった。そのためか昨年度と比べて「わからない」と回答した割合が1割ほど増加している。
	評価結果	割合												
	①	22%												
	②	57%												
③	17%													
④	4%													
児童			<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・実体験や実物を活用した学習活動もオンラインと並行して重要性が増しているため、市役所とも連携し、地域人材のリストを進めていく必要がある。直接来校していただくことは難しくてもICTを活用した人材活用ができるようになってきたので、オンラインでの事例を積み重ね、次年度に生かすことで、コロナ禍でなくなった際の活動につなげることができる。 											
保護者	学校は、保護者・地域住民などの地域人材を教育活動に活用している。	<table border="1"> <tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>26%</td></tr> <tr><td>②</td><td>56%</td></tr> <tr><td>③</td><td>9%</td></tr> <tr><td>④</td><td>9%</td></tr> </table>	評価結果	割合	①	26%	②	56%	③	9%	④	9%	<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域人材を活用した教育活動について、今後も学校だよりやホームページで紹介する機会を数多く設けていただきたい。また、保護者への周知はされている様だが、地域住民への情報発信について検討してみてもどうか。 ・コロナ禍にあっても、方法や内容を工夫されて取り組まれていることが評価できる。ICT機器の活用により、離れていても交流できる工夫をぜひ進めてほしい。 ・それぞれの団体や人とのつながりが、途絶えないように連絡は取っておくことが大切である。 	
評価結果	割合													
①	26%													
②	56%													
③	9%													
④	9%													
地域	学校は、保護者・地域住民などの地域人材を教育活動に活用している。	<table border="1"> <tr><th>評価結果</th><th>割合</th></tr> <tr><td>①</td><td>13%</td></tr> <tr><td>②</td><td>57%</td></tr> <tr><td>③</td><td>13%</td></tr> <tr><td>④</td><td>17%</td></tr> </table>	評価結果	割合	①	13%	②	57%	③	13%	④	17%		
評価結果	割合													
①	13%													
②	57%													
③	13%													
④	17%													

鶴ヶ島市立藤小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察
学校環境 ⑪	教職員	学校は、清掃活動や 掲示教育に力を入れる など、組織的に環境美 化に努めている。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>評価結果 について の分析・ 課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・95%の教職員が組織的に環境美化に努めていると回答し、児童は92%が学校をきれいにしようと努めていると回答している。そのうち66%の児童はとてもそう思うと回答していることから、自問清掃も始まり、意識が高まっていることが分かる。保護者も学校環境を評価していると考えられる。自問清掃の意識は引き続き高めていきたい。
	児童	私は学校をきれいに しようと心がけ、清掃 をしている。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>課題解決 への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・地域の方が来校する機会がないことから、校内の清掃活動や掲示教育についての認識が低いと思われる。今年度、樹木の伐採と剪定が行われ、外から見た学校の印象が明るくなった。花壇の整備や除草作業など、引き続きPTAや地域の協力を得て進めていくようにする。
	保護者	学校は、清掃活動や 掲示教育に力を入れ、 環境美化に努めてい る。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	<p>学校関係 者評価委 員会によ る評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・保護者・地域の皆様方より肯定的な意見がともに90%以上を示しており、大変ありがたいと感じている。 ・児童や教職員の評価が高く、意識されていることは大変評価できる。人は環境で育むともいわれるように、心の教育につながるようにこれからも環境美化に努めてほしい。 ・コロナ禍で美化活動も難しいと思うが、学校だけでなく、PTAや地域人材の活用を積極的に進めてほしい。
	地域	学校は、清掃活動や 掲示教育に力を入れ、 環境美化に努めてい る。	<p>0% 20% 40% 60% 80% 100%</p> <p>□① □② □③ □④ □⑤</p>	

鶴ヶ島市立藤小学校

評価結果：①そう思う ②だいたいそう思う ③あまりそう思わない
④そう思わない ⑤わからない・無答

領域	対象	質問項目	評価結果	評価・考察										
働き方改革 ⑫	教職員	⑫学校は、働き方改革を進め、教科指導や教育相談等、直接児童に係る時間が増えるよう努めている。	<table border="1"> <caption>評価結果 (教職員)</caption> <thead> <tr> <th>評価項目</th> <th>割合</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td>①</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>②</td> <td>61%</td> </tr> <tr> <td>③</td> <td>17%</td> </tr> <tr> <td>④</td> <td>4%</td> </tr> </tbody> </table>	評価項目	割合	①	17%	②	61%	③	17%	④	4%	<p>評価結果についての分析・課題</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全体の約78%が肯定的な意見である。常日頃から学校行事等の精選や諸会議の時間厳守等に努めたとともに、スクールサポートスタッフをはじめ、学校運営補助員や学習支援員の余力あるサポート体制により、事務処理や教材準備の作業が軽減され、教材研究や児童対応等に、より一層の時間を充てることができてきていると思われる。一方で、働き方改革の推進に対しての否定的意見が約3割ほどあることから、学校の取り組みがまだまだ不十分であることが考えられる。
	評価項目	割合												
	①	17%												
	②	61%												
③	17%													
④	4%													
児童			<p>課題解決への方策</p> <ul style="list-style-type: none"> ・学級経営、学年経営、学校経営とそれぞれ置かれている立場で負担軽減が可能な箇所を洗い出し、どのようにしたら軽減が図れるか等を考え推進していく必要がある。 ・必要に応じて市教育委員会への提案、要望も行っていく。 											
保護者			<p>学校関係者評価委員会による評価</p> <ul style="list-style-type: none"> ・肯定的な意見が多く安心している。教職員の負担が大きいと、余裕を持って児童に関わるのが難しいと考える。児童のためにも今後も協力していきたい。 											
地域														